

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ こども指針(仮称)ワーキングチーム(第6回)	資料 2 - 1
平成23年6月13日	

こども指針(仮称)ワーキングチームにおける これまでの議論の整理(案)

平成23年6月13日

第6回 こども指針(仮称)ワーキングチーム資料

こども指針(仮称)ワーキングチームにおけるこれまでの議論の整理(案)

1. 子ども・子育てに関する理念

	主な意見
子ども・子育てに関する理念	<p>(全般)</p> <p>子ども・子育ての理念については、文化的価値と哲学を示すミッションステートメント、乳幼児期からの教育や良質経験の重要性、子どもの最善の利益と民主的市民としての子どもの理念、家庭との連携、保護者の責務、国や地方公共団体の責務について記述すべき。</p> <p>子ども・子育ての理念は、子ども視点の書き方、実践者視点の書き方、親視点の書き方、地域視点の書き方が考えられる。</p> <p>子ども・子育ての理念は、家庭教育をしばるものとならないよう、法的拘束性は持たせないようにすべき。</p> <p>(子ども)</p> <p>子どもは育てられるという側面と育つという側面の両面がある。チルドレン・ファーストという言葉は主体の要素が強い。子どもをどう捉えるのか。子ども論を検討することが必要。</p> <p>これからの乳幼児期の子どもにどうあってほしいのかを述べる必要がある。</p> <p>乳幼児の教育の基本的理念は一人一人の子どもは違ってそれでよいということであり、一人一人のよさや可能性を十分に生かすことが重要。</p> <p>子ども・子育ての理念は、新たに別のものをつくるという発想ではなく、既存のもののエッセンスを抽出していくイメージではないか。</p> <p>子どもを育てると同時に、子どもは子ども自身、自らを育てていく、発達していくものであり、そういった能動的な子ども観を盛り込めるとよい。</p> <p>幼児期には心の育ちが第一に必要であり、人格の基礎を培うことが必要。</p>

	主な意見
<p>子ども・子育てに関する理念</p>	<p>(家庭)</p> <p>家庭教育の大切さを述べる必要がある。</p> <p>家庭の在り方について何らかの形を示さない限り、好き勝手にすることが個人の権利だということに対する歯止めにならないのではないか。</p> <p>家庭にどこまで介入するか、干渉するのは非常に難しい問題であり、あまり家庭への干渉と取られないようにすることが重要。</p> <p>家庭や子育てに優しい社会をつくっていくという視点が必要。</p> <p>子育てはつらい、大変だというのではなく、子育ては楽しい、子どもを育てることによって親も育つという子どもを育てる喜びを意識できるようにすることが必要。</p> <p>保護者に子育ての責任があることと保護者が自分で子育てをすることはイコールではないと捉えるべき。</p> <p>親の子育てへの第一義的責任を確認した上で、様々な立場にある子どもたちの健やかな育ちを支えていく支援を社会の仕組みとして考えるべき。</p> <p>(地域等)</p> <p>子どもが育つ場として、地域でのネットワークづくり、コミュニティづくりが必要。</p> <p>子育ては地域の中で親同士や地域の人たちとのつながりができること、地域の中に参加していこうという意識が重要であり、親や保育者など地域の関係者が皆で子どもの育ちを大事にしようという方向にむかうことが必要。</p> <p>地域での子育て支援についても分かりやすく示してほしい。</p> <p>幼児期の教育の特質を書き込むことにより、子育て関係者間で共通認識が持てるようにすることが必要。</p> <p>(その他)</p> <p>21世紀の社会的要請に応じ、どういう能力を育てるのかといった観点からの検討が必要。</p> <p>シチズンシップのような社会の一員意識、社会の中で子どもがどのように育つべきかを示すべき。</p> <p>一人一人が参加し共に生きるための関係をつくり出していくという市民性を育むことは、乳幼児期から生涯までをつなぐためには重要。</p>

2. 施設における指導・援助の基準

	主な意見
基準の基本的な考え方(構成等)	<p>(全般)</p> <p>基準としては、0歳から就学前の乳幼児を対象とすべき。その際、0歳から18歳まで見通すことも必要。</p> <p>基準の構成や内容については、従来の幼稚園教育要領や保育所保育指針の考え方を生かすことが必要。</p> <p>幼稚園教育要領や保育所保育指針はこれまで大綱化してきているので、それを生かして大綱化の方向で検討すべき。</p> <p>施設の基準については、質保障の観点から、法的拘束性を持つ内容や方法を規定すべき。</p> <p>施設の運営事項については、質評価と施設運営事項を関連付けて省令なりでつくることが望ましい。</p> <p>質をどう評価するか検討が必要。乳児を含めて良質経験が必要といっても、何が良質経験なのか議論がないままだと、結局預かっているだけということになってしまう。</p> <p>保護者にも分かりやすく理解できるように記述すべき。</p> <p>発達障害を含め、インクルージョンの問題について検討することが必要。</p> <p>食育の重要性についてしっかり位置付けるべき。</p> <p>(名称)</p> <p>施設で提供する内容を示す「養護・教育要領」といった名称がふさわしいのではないかな。</p> <p>現在、我々が検討している指針は、こども指針ではなく、「子ども・子育て指針」ではないのか。</p> <p>要領と指針という2つの表現があるが、そこを新しい形で「保育要領」という名前なども含めて考えてはどうか。</p> <p>施設に対する法的拘束力を持つ基準が、「指針」という言葉でよいのか検討が必要。</p>

	主な意見
施設における 指導・援助の 時間・日数等	<p>子どもにどのような生活を保障するのかという観点から考えるべき。</p> <p>家庭や地域での生活の連続性を踏まえて、施設で過ごす時間を考えることが必要。</p> <p>一人一人の子どもの活動を集団として保障するときに、一定の時間、子どもたち全員が集団として参加しなければならない時間は確実にある。</p> <p>子どもの経験としてどういう活動の時間を保障することが必要か。子どもの発達に応じて、子どもの質を保障すべきという観点から時間や日数を考えることが必要。</p> <p>集団で行う時間として、集中力が持続できる時間としては、4時間が丁度よいのではないか。</p> <p>子どもの生活を考える際には親の働き方を考えることが必要。親が子育てに参加することができるようになることを考えることが必要。</p>

	主な意見
<p>子どもの発達 (発達過程、 発達の特性)</p>	<p>子どもの発達には諸領域がお互いに関わりあって育っていく。実際の子どもの姿と重ねながら、発達の諸領域がいかに関連性を有しているかを押さえた上で、子どもの発達の特性や発達過程を考えることが必要。</p> <p>幼児期の子どもの発達には行ったり来たりしながら育つということを理解することが必要。</p> <p>子どもの様々な側面が相互に一人の人格としてどう関わっていくのか押さえることが必要。</p> <p>0歳の育ちがあって3歳がある。0歳は何も分らないのではなく、十分分かっている。0、1、2歳でいろいろなことを学んでいることを理解することが必要。</p> <p>子どもの発達を分かりやすく示すと、親はできるできないをチェックしないといけないのかと思いがちなので、そうではないということを理解してもらうことが課題になる。</p> <p>子どもの発達過程や特性は基準としては大綱的に示し、詳しいことは解説書で解説することが望ましい。</p> <p>基準を読まずに解説書だけを読むことになっては大綱化とはいえないので、各地域の優れた実践例を集めたものをつくった方がよい。</p> <p>基準を大綱化する場合には解説書が必要。解説書はマニュアルと捉えるべきでなく、それを生かして、どう実践していくかを工夫することが重要。</p> <p>子どもの発達について親にも伝わるようにすることが重要。</p> <p>子どもの発達は、子どもがどんな環境にいるか、どんな子ども集団の中での体験が多いかによって変わってくるので、実際の子どもの発達を把握することが重要。</p>

	主な意見
教育のねらい 及び内容	<p>子どもは領域で発達するのではなく、様々なことが関わりあって総合的発達していくことをまず前提として書くべき。</p> <p>「内容」については、幼稚園教育要領には指導する事項が書かれていて、保育所保育指針には保育士等が援助して環境に関わって経験する事項が書かれているので、その整合性を図る必要がある。</p> <p>養護と教育は表裏一体だが、保育所保育指針では、養護に関わるねらい及び内容、教育に関わるねらい及び内容に分けて示すことにより、養護はどのようなものか、教育は何を目指すものなのかが明確になっている。</p> <p>幼児期においては、子どもの経験を大事にして、それをいかに環境を通して可能にしていくかという意味合いで「指導」という言葉を使っている。</p> <p>幼稚園教育要領では、総則で「幼稚園教育の基本」を示している。一番大事なことはどこかに代表して書くことで誤解を受けなくて済むのではないか。</p>
養護のねらい 及び内容	<p>「生命の保持」、「情緒の安定」は全ての年齢に関わる大事なことであり、3歳未満児だけに限定されるものではないことを明確にすべき。</p> <p>長時間同じ場で保育を受けるとなったときに、養護について基準で丁寧に示すことは重要。</p> <p>保育者の一人一人が丁寧に子どもに対応していくことが本質であることを明示することが必要。</p> <p>でないと、教育は何かさせるもの、養護は世話をするものという捉え方をされてしまう。</p> <p>「養護」という言葉を一般の人がどう捉えるかということも考えるべき。</p> <p>最初から年齢別に分けて配慮事項を示すのではなく、全体の配慮事項を書いた上で、乳児、3歳未満児、3歳以上児などに分けて配慮事項を示すことが必要。</p> <p>「生命の保持」「情緒の安定」となっているが、命を守るということは心の問題を抜きにしては語れないので、その点をどのように示せばよいか検討が必要。</p> <p>保護者にも、子どもの育ちに大事なことはこういうことだということが整理されて見えてくるとよい。</p> <p>幼児期は保護者との関係が子どもの情緒に大変関係してくるので、その点を明記すべき。</p> <p>策定に当たっては、専門家の知見を生かした内容にしてほしい。</p>

	主な意見
家庭・地域との連携、子育て支援	<p>子育て支援がなぜ必要かという背景を明示することが重要。こうした背景のもとに、新しい施設が果たす役割を明確に位置付けることが必要。</p> <p>子育て支援について、基礎自治体である市町村の役割を明示することが重要。</p> <p>地域の要保護児童への対応について明記することが必要。</p> <p>子育て支援をサービスとして捉えるのみならず、親が親として成長していく、子育てをする喜びを味わえるという意味で捉えることが重要。</p> <p>子育て支援は虐待等の予防にも大切な役割を果たす。親の精神的な安心・安定が親のエンパワメントにつながるので、そのことが子育て支援の大切な役割の一つである。</p> <p>就労している親と就労していない親と一緒に何かすることは本当に難しいが、親同士が親しくなって一緒に子どもを育てようという意識を持てるようにすることが必要。子どもと一緒に育てていこうというネットワークをどうつくっていくかが課題。</p> <p>地域の資源というものを大事にしていくことが必要。</p> <p>地域を子どもが育つ環境にしていくという観点が必要。</p> <p>地域との関わりの重要性は分かるが現実には働く親は忙しい。ワーク・ライフ・バランスを踏まえて考えることが必要。</p> <p>親同士のコミュニケーションがなかなか取らないため、施設の専門家や地域の人たちが関わりあいながら、親同士のコミュニケーションがとれるように促進することが重要。</p>

	主な意見
小学校との 連携・接続	<p>乳児から学びがあり、0歳から幼児期まで、更には小学校から18歳までという形の中で、全てが学びという前提で解釈していくことが大切。学びの芽生えから自覚的な学びという、子どもの発達のプロセスと施設の基準との整合性を持たせていかなければならない。</p> <p>小学校教育の前倒しではなく、子どもの発達に応じた学びとして接続が必要なことを保護者にも分かるようにすべき。</p> <p>子どもの発達について小学校の教員と理解を共有できるようにすることが重要。</p> <p>就学前の子どもを持つ親は小学校について学ぶ機会がほとんどないので、接続の観点から、保護者として学んでおかないといけないことについて学べる機会を提供すべき。</p> <p>小学校との連携・接続は古くて新しい課題であり、これまでの経緯も踏まえて検討していくことが重要。</p> <p>子どもの自立を急ぐ方向で解釈されないよう、子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うといった哲学を記述すべき。</p> <p>養護の側面を接続期においても重視してほしい。</p> <p>小学校に入って働き始める親が増えると言われているので、親の自立ということも入れてほしい。</p> <p>子どもたちが小学校に安心してつながり、教育を受けられるようなシステム化、ネットワーク化が必要。</p>